



さかもと きみあき
坂本公明議員

地方創生の取り組みを問う



議員 創生のキーワードは何か。

市長 笠岡市の地方創生のキーワードはまち・ひと・しごとの3点である。まちについては、笠岡の豊かな自然や歴史、伝統文化を活かしながら中心市街地の都市機能を上げていく。笠岡駅周辺の再開発を進める。ひとについては、子どもたちの学力向上が課題であり教育委員会、各学校からの声を反映し実効性のある方策を検討する。そして公民館やまちづくり協議会と連携し、多様な人材を積極的に育成する。しごとについては、倉敷から福山に至る100万都市圏、そして国道2号線玉島笠岡道路による利便性を最大限に活かし、企業誘致や起業支援に取り組み。

議員 課題に対し取り組む姿勢は。

市長 厳しい財政状況ではあるが、必要な施策を打っていく。市民との対話、現場主義を大切にす。

議員 市長の考え方は職員に徹底されているか。

市長 市民と直接対話する現場第一主義、スピード感のある意思決定と施策の推進を率先してきた。職員にも浸透していると考えている。

議員 計画に対し財政の裏打ちは。

市長 総合戦略事業については交付金の活用を前提としている。市独自の財源はふるさと納税、企業版ふるさと納税の活用をしていく。

※他に「まちづくり」について質問をしました。



たぐちただよし
田口忠義議員

港を集約できないか

議員 島の玄関、笠岡諸島交流センターの次のステップとして、伏越港フェリー乗り場を住吉港に移設することで、島民並びに観光客の利便性が図れると思われるが、今後の集約構想をたずねる。

市長 港機能の集約化には、必要な水深の確保などの安全性の検証、不法係留しているボートの移設など、港湾管理者である岡山県と協議し、その港湾整備計画の中で整理していくべき課題が相当ある。

政策部長 岡山県には将来的な構想として、一体化の検討もお願いをしている。地元県議にも同様のお願いをしている。

議員 島民や観光客を合わせ約4割の方がフェリーを利用している



が不便を感じている。また港については予算を含め県の管轄である。是非とも前向きに検討を願う。

指定ごみ袋は有料化となるか

議員 平成17年度を基準として20%減量、1万1400トンとする計画に対し、最終年度である本年度の目標達成の見通しをたずねる。

市長 平成29年度は1万2500トンの見込みであり、より一層の減量化を進める施策として、廃棄物減量等推進審議会の議論も踏まえ、単純従量制へ移行する条例改正案を改めて提案したい。

議員 4割を占めていた事業ごみは目標達成の見込みと思われる。家庭ごみについては、さらなる減量努力は必要だが、市民の減量化意識は他市町に比べ高いと思われる。これを考慮した提案を願う。